

表4—20 入居場所と「機能訓練」の比較 ($\chi^2(7)=21.193$ $P<0.05$)

			機能訓練		合 計
			非実施	実施	
入居場所	U-K ①	度数	9	1	10
		入居場所の%	90.0%	10.0%	100.0%
		機能訓練の%	16.4%	7.7%	14.7%
		調整済み残差	0.8	-0.8	
	U-K ②	度数	12	1	13
		入居場所の%	92.3%	7.7%	100.0%
		機能訓練の%	21.8%	7.7%	19.1%
		調整済み残差	1.2	-1.2	
	U-K ③	度数	6	1	7
		入居場所の%	85.7%	14.3%	100.0%
		機能訓練の%	10.9%	7.7%	10.3%
		調整済み残差	0.3	1.3	
	G-K	度数	8	0	0
		入居場所の%	100.0%	0.0%	100.0%
		機能訓練の%	14.5%	0.0%	11.8%
		調整済み残差	-0.7	0.7	
	G-H	度数	2	5	7
		入居場所の%	28.6%	71.4%	100.0%
		機能訓練の%	3.6%	38.5%	10.3%
		調整済み残差	-2.7	2.7	
	U-H	度数	1	2	3
		入居場所の%	33.3%	66.7%	100.0%
		機能訓練の%	1.8%	15.4%	4.4%
		調整済み残差	-2.1	2.1	
	G-KH	度数	9	0	9
		入居場所の%	100.0%	0.0%	100.0%
		機能訓練の%	16.4%	0.0%	13.2%
		調整済み残差	1.6	-1.6	
U-KH	度数	8	3	11	
	入居場所の%	72.7%	27.3%	100.0%	
	機能訓練の%	14.5%	23.1%	16.2%	
	調整済み残差	-0.8	0.8		
合 計	度数	55	13	68	
	入居場所の%	80.9%	19.1%	100.0%	
	機能訓練の%	100.0%	100.0%	100.0%	

表4—21 認知症種類と「清掃」の比較 ($\chi^2(3)=12.218$ $P<0.05$)

			清掃		合計
			非実施	実施	
認知症の種類	アルツハイマー型	度数	9	6	15
		認知症種類の%	60.0%	40.0%	100.0%
		清掃の%	16.1%	50.0%	22.1%
		調整済み残差	-2.6	2.6	
	脳血管疾患	度数	24	3	27
		認知症種類の%	88.9%	11.1%	100.0%
		清掃の%	42.9%	25.0%	39.7%
		調整済み残差	1.1	-1.1	
	混合型	度数	0	1	1
		認知症種類の%	0.0%	100.0%	100.0%
		清掃の%	0.0%	8.3%	1.5%
		調整済み残差	-2.2	2.2	
	不明	度数	23	2	25
		認知症種類の%	92.0%	8.0%	100.0%
		清掃の%	41.1%	16.7%	36.8%
		調整済み残差	1.6	-1.6	
合計	度数	56	12	68	
	認知症種類の%	82.4%	17.6%	100.0%	
	清掃の%	100.0%	100.0%	100.0%	

表4—22 要介護度と「移動・移乗・体位交換」の比較($\chi^2(4)=9.706$ $P<0.05$)

			移動・移乗・体位交換		合 計
			非実施	実施	
要 介 護 度	1	度数	2	6	8
		要介護度の%	25.0%	75.0%	100.0%
		移動の%	2.9%	8.8%	11.8%
		調整済み残差	3.0	-3.0	
	2	度数	0	8	8
		要介護度の%	0.0%	100.0%	100.0%
		移動の%	0.0%	11.8%	11.8%
		調整済み残差	-0.6	0.6	
	3	度数	1	23	24
		要介護度の%	4.2%	95.8%	100.0%
		移動の%	1.5%	33.8%	35.3%
		調整済み残差	-0.1	0.1	
	4	度数	0	15	15
		要介護度の%	0.0%	100.0%	100.0%
		移動の%	0.0%	22.1%	22.1%
		調整済み残差	-0.9	0.9	
	5	度数	0	13	13
		要介護度の%	0.0%	100.0%	100.0%
		移動の%	0.0%	19.1%	19.1%
		調整済み残差	-0.9	0.9	
合 計	度数	3	65	68	
	要介護度の%	4.4%	95.6%	100.0%	
	移動の%	100.0%	100.0%	100.0%	

表4—23 要介護度と「調理」の比較($\chi^2(4)=13.937$ $P<0.05$)

			調理		合 計
			非実施	実施	
要 介 護 度	1	度数	7	1	8
		要介護度の%	87.5%	12.5%	100.0%
		調理の%	11.9%	11.1%	11.8%
		調整済み残差	0.1	-0.1	
	2	度数	4	4	8
		要介護度の%	50.0%	50.0%	100.0%
		調理の%	6.8%	44.4%	11.8%
		調整済み残差	-3.3	3.3	
	3	度数	20	4	24
		要介護度の%	83.3%	16.7%	100.0%
		調理の%	33.9%	44.4%	35.3%
		調整済み残差	-0.6	0.6	
	4	度数	15	0	15
		要介護度の%	100.0%	0.0%	100.0%
		調理の%	25.4%	0.0%	22.1%
		調整済み残差	1.7	-1.7	
5	度数	13	0	13	
	要介護度の%	100.0%	0.0%	100.0%	
	調理の%	22.0%	0.0%	19.1%	
	調整済み残差	1.6	-1.6		
合 計	度数	59	9	68	
	要介護度の%	86.8%	13.2%	100.0%	
	調理の%	100.0%	100.0%	100.0%	

表4—24 要介護度と「排泄」の比較 ($\chi^2(4)=26.000$ $P<0.05$)

			排泄		合計
			非実施	実施	
要 介 護 度	1	度数	6	2	8
		要介護度の%	75.0%	25.0%	100.0%
		排泄の%	35.3%	3.9%	11.8%
		調整済み残差	3.5	-3.5	
	2	度数	5	3	8
		要介護度の%	62.5%	37.5%	100.0%
		排泄の%	29.4%	5.6%	11.8%
		調整済み残差	2.6	-2.6	
	3	度数	6	18	24
		要介護度の%	25.0%	75.0%	100.0%
		排泄の%	35.3%	35.3%	35.3%
		調整済み残差	0	0	
	4	度数	0	15	15
		要介護度の%	0.0%	100.0%	100.0%
		排泄の%	0.0%	29.4%	22.1%
		調整済み残差	-2.5	2.5	
	5	度数	0	13	13
		要介護度の%	0.0%	100.0%	100.0%
		排泄の%	0.0%	25.5%	19.1%
		調整済み残差	-2.3	2.3	
合計		度数	17	51	68
		要介護度の%	25.0%	75.0%	100.0%
		排泄の%	100.0%	100.0%	100.0%

表4—25 社会生活支援における平均年齢の比較

社会生活支援	平均値	度数	標準偏差	平均の標準誤差
未実施	86.44	41	5.797	.905
実施	83.38	26	5.960	1.169
合計	85.25	67	6.006	.734

表4—26 入居者の属性と支援行為頻度との相関(spearman)

		HDS-R	BPSD (Behave AD)	ADL (Barthel Index)	IADL	入居期間	年齢	罹患期間
1.入浴・清潔保持・整容・更衣	洗面・手洗い	-0.259	0.159	-0.165	-0.075	0.149	-0.052	0.320*
	口腔・耳ケア	** -0.443	-0.021	-0.181	-0.168	0.057	0.046	0.148
	整容	0.008	0.046	-0.116	0.141	0.014	0.009	-0.098
2.移動・移乗・体位交換		** -0.330	0.218	** -0.435	* -0.273	0.137	-0.40	0.233
3.食事	調理	0.174	-0.043	** 0.354	0.142	0.095	0.049	0.038
	配膳・下膳	* 0.296	-0.083	** 0.406	0.126	0.024	-0.104	* -0.340
	食器洗浄・食器の片付け	0.294	-0.099	** 0.374	0.199	-0.013	0.033	0.031
	水分摂取	** -0.320	0.209	0.066	* -0.244	0.009	0.034	0.074
4.排泄		-0.189	** 0.428	** -0.323	-0.111	0.264	-0.099	* 0.263
5.生活自立支援	洗濯	0.214	0.053	* 0.274	0.074	0.007	-0.115	-0.114
	清掃・ごみの処理	-0.086	0.127	** 0.330	0.099	0.133	-0.003	-0.071
	コミュニケーション	0.044	** 0.322	-0.056	0.065	0.134	-0.167	0.252
6.社会生活支援		0.004	0.086	0.089	0.031	-0.061	-0.156	0.239
7.行動上の問題		-0.80	** 0.340	0.089	0.027	-0.078	-0.029	0.089
8.医療		0.206	-0.156	0.184	-0.007	-0.063	-0.098	0.066
9.機能訓練		-0.198	-0.166	0.033	0.093	0.101	-0.091	0.091

* 5%水準で有意

■ は相関係数絶対値 0.3 以上

表4-27 洗面・手洗いにおける属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	28	85.5	6.415	
	支援	40	84.88	5.841	
要介護度	非支援	28	2.79	1.287	F(1.66)=7.322 P<0.05
	支援	40	3.58	1.107	
HDS-R	非支援	28	8.64	6.471	F(1.66)=11.029 P<0.05
	支援	40	4.15	4.693	
ADL	非支援	28	55.18	32.843	F(1.66)=5.137 P<0.05
	支援	40	38.75	26.789	
BPSD	非支援	28	7.18	5.894	
	支援	40	10.22	9.071	
罹患期間	非支援	20	55.35	40.517	
	支援	37	79.19	48.45	
入居期間	非支援	28	38.21	41.743	
	支援	40	59.6	61.162	

表4-28 口腔ケアにおける属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	41	84.68	5.953	
	支援	27	85.81	6.227	
要介護度	非支援	41	3.15	1.276	F(1.66)=15.147 P<0.05
	支援	27	3.14	1.185	
HDS-R	非支援	41	8.05	5.792	
	支援	27	2.89	4.585	
ADL	非支援	41	48.17	33.499	
	支援	27	41.48	24.761	
BPSD	非支援	41	9.27	8.594	
	支援	27	8.52	7.17	
罹患期間	非支援	36	64.36	38.73	
	支援	21	81.90	57.659	
入居期間	非支援	41	46.54	44.104	
	支援	27	57.26	68.16	

表4-29 移動における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	3	82.33	6.506	F(1.66)=5.473 P<0.05 F(1.66)=6.237 P<0.05
	支援	65	85.26	6.045	
要介護度	非支援	3	1.67	1.155	
	支援	65	3.32	1.2	
HDS-R	非支援	3	11.00	2.646	
	支援	65	5.77	5.902	
ADL	非支援	3	86.67	7.638	
	支援	65	43.62	29.613	
BPSD	非支援	3	5.67	2.082	
	支援	65	9.12	8.156	
罹患期間	非支援	3	62.67	36.295	
	支援	54	71.28	47.628	
入居期間	非支援	3	32.33	42.158	
	支援	65	51.65	55.318	

表4-30 排泄における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	17	85.29	5.998	F(1.66)=34.715 P<0.05 F(1.66)=5.080 P<0.05 F(1.66)=18.129 P<0.05 F(1.66)=8.358 P<0.05
	支援	51	85.08	6.118	
要介護度	非支援	17	2.00	0.866	
	支援	51	3.67	1.052	
HDS-R	非支援	17	8.71	6.715	
	支援	51	5.1	5.356	
ADL	非支援	17	69.71	25.524	
	支援	51	37.45	27.520	
BPSD	非支援	17	4.35	4.152	
	支援	51	10.51	8.415	
罹患期間	非支援	10	54.20	24.284	
	支援	47	74.36	49.873	
入居期間	非支援	17	32.12	33.060	
	支援	51	57.02	59.173	

表4-31 調理における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	59	84.88	5.742	
	支援	9	86.78	7.965	
要介護度	非支援	59	3.39	1.246	F(1.66)=6.118 P<0.05
	支援	9	2.33	0.707	
HDS-R	非支援	59	5.69	5.926	
	支援	9	8.00	5.523	
ADL	非支援	59	41.27	28.747	F(1.66)=9.897 P<0.05
	支援	9	79.33	26.458	
BPSD	非支援	59	9.17	8.334	
	支援	9	7.67	5.635	
罹患期間	非支援	50	70.72	48.521	
	支援	7	71.57	35.851	
入居期間	非支援	59	50.61	57.469	
	支援	9	52.00	33.347	

表4-32 配膳・下膳における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	41	85.41	5.933	
	支援	27	84.70	6.299	
要介護度	非支援	41	3.56	1.226	F(1.66)=7.105 P<0.05
	支援	27	2.78	1.121	
HDS-R	非支援	41	4.95	5.736	
	支援	27	7.59	5.859	
ADL	非支援	41	36.83	27.945	F(1.66)=9.562 P<0.05
	支援	27	58.70	29.437	
BPSD	非支援	41	9.46	8.530	
	支援	27	8.22	7.245	
罹患期間	非支援	37	78.30	42.028	
	支援	20	57.00	53.112	
入居期間	非支援	41	51.10	47.407	
	支援	27	50.33	65.211	

表4-33 食器洗浄・後片付けにおける属性比較

		N	平均値	標準偏差		
年齢	非支援	52	84.98	5.956	F(1.66)=4.545 P<0.05	
	支援	16	85.62	6.500		
要介護度	非支援	52	3.42	1.194		
	支援	16	2.69	1.250		
HDS-R	非支援	52	5.35	5.562		
	支援	16	8.13	6.582		
ADL	非支援	52	39.23	28.446		F(1.66)=10.902 P<0.05
	支援	16	65.94	27.762		
BPSD	非支援	52	9.31	8.004		
	支援	16	7.88	8.197		
罹患期間	非支援	43	68.95	38.864		
	支援	14	76.57	67.383		
入居期間	非支援	52	48.77	44.439		
	支援	16	57.38	81.178		

表4-34 洗濯における属性比較

		N	平均値	標準偏差		
年齢	非支援	55	85.44	6.109	F(1.66)=5.509 P<0.05	
	支援	13	83.85	5.814		
要介護度	非支援	55	3.38	1.240		
	支援	13	2.69	1.109		
HDS-R	非支援	55	5.44	5.64		
	支援	13	8.38	6.539		
ADL	非支援	55	41.45	29.513		F(1.66)=5.509 P<0.05
	支援	13	62.69	28.549		
BPSD	非支援	55	9.02	8.552		
	支援	13	8.77	5.403		
罹患期間	非支援	47	73.09	49.579		
	支援	10	60.20	30.976		
入居期間	非支援	55	52.76	58.974		
	支援	13	42.46	31.015		

表4-35 清掃における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	56	85.16	6.184	F(1.66)=8.527 P<0.05
	支援	12	85.00	5.592	
要介護度	非支援	56	3.32	1.281	
	支援	12	2.92	0.996	
HDS-R	非支援	56	6.25	6.28	
	支援	12	4.83	5.254	
ADL	非支援	56	40.80	29.921	
	支援	12	67.5	21.899	
BPSD	非支援	56	8.91	8.569	
	支援	12	9.25	4.861	
罹患期間	非支援	46	66.89	49.463	
	支援	11	87.27	30.477	
入居期間	非支援	56	50.73	58.33	
	支援	12	51.08	34.786	

表4-36 行動上の問題における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	51	85.33	6.317	F(1.66)=12.205 P<0.05
	支援	17	84.53	5.269	
要介護度	非支援	51	3.10	1.285	
	支援	17	3.71	0.985	
HDS-R	非支援	51	6.08	5.621	
	支援	17	5.76	6.806	
ADL	非支援	51	45.69	30.183	
	支援	17	45.00	31.623	
BPSD	非支援	51	7.16	5.368	
	支援	17	14.41	11.694	
罹患期間	非支援	41	67.29	38.367	
	支援	16	79.87	64.483	
入居期間	非支援	51	49.69	42.110	
	支援	17	54.12	83.501	

表4-37 会話・コミュニケーションにおける属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	2	85.00	4.243	F(1.66)=4.319 P<0.05
	支援	66	85.14	6.114	
要介護度	非支援	2	5.00	0.00	
	支援	66	3.20	1.218	
HDS-R	非支援	2	1.50	2.121	
	支援	66	6.14	5.917	
ADL	非支援	2	5.00	7.071	
	支援	66	46.74	29.904	
BPSD	非支援	2	3.5	0.707	
	支援	66	9.14	8.074	
罹患期間	非支援	2	34.5	2.121	
	支援	55	72.15	47.206	
入居期間	非支援	2	41.00	42.426	
	支援	66	51.09	55.528	

表4-38 社会生活支援における属性比較

		N	平均値	標準偏差	
年齢	非支援	41	86.44	5.797	F(1.65)=4.322 P<0.05
	支援	26	83.38	5.96	
要介護度	非支援	41	3.27	1.342	
	支援	26	3.27	1.076	
HDS-R	非支援	41	5.56	5.509	
	支援	26	6.19	6.099	
ADL	非支援	41	43.78	30.594	
	支援	26	46.54	29.657	
BPSD	非支援	41	8.34	6.56	
	支援	26	10.27	9.91	
罹患期間	非支援	32	69.84	51.104	
	支援	24	74.08	41.513	
入居期間	非支援	41	56.54	63.077	
	支援	26	42.88	38.707	

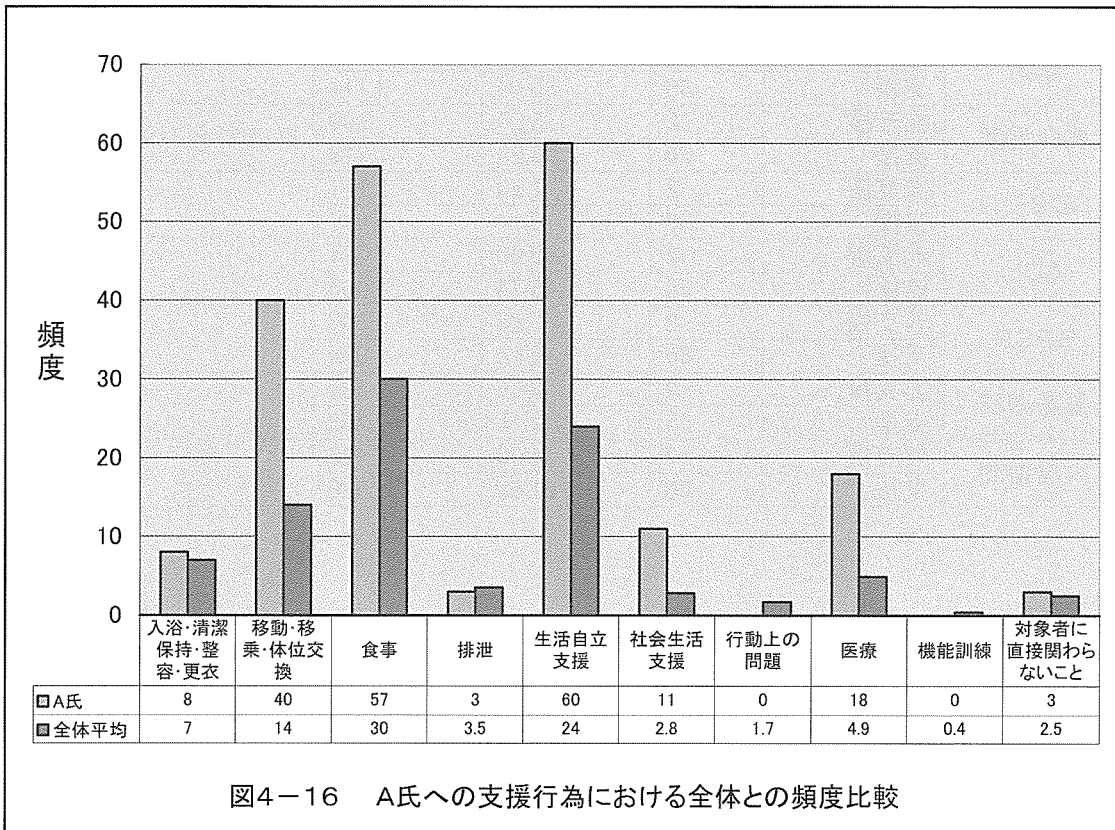


図4-16 A氏への支援行為における全体との頻度比較

表4-39 入居者A氏への介護スタッフの行動分析

場面	直接的関わり	回	間接的関わり	回
リビング	リビングでの朝の挨拶	2	朝の様子を(見て)確認	1
	牛乳を渡す	1		
	牛乳を飲むための声かけ	1		
	飲ませる	1	こぼれないよう見守り	1
朝食	朝食声かけ、挨拶	2		
	食卓起座の介助、声かけ	2		
	食事の準備、声かけ	3	食事を開始したかの確認	1
	摂食の介助、声かけ、後始末	12	食事の様子・ペースに目配り	2
	食事の談笑	1	食事が済んだかの確認	1
	食事の後始末	1		
	服薬介助、声かけ	4	服薬を一緒に	1
リビング	ズボンについて話かける	1	A氏の着衣について観察	1
	うがいの声かけ			
	隣に座り、健康チェック	2	チェックしながら目配り	2
	日常会話(買い物の話など)	2	会話しながら見守り	1
トイレ	手を握り、体を起こす	1	A氏の座っている状態に目配り	1
	スキンシップをしながら談笑	2	笑いかける	1
	トイレかどうかを尋ねる	1		
	手をつないでトイレまで往復	2		
	手洗いの声かけ	1		
おやつ	日常会話(スリッパの話)	2	A氏の足をちらりと見る	1
	おやつ誘いの声かけ	2	他者を巻き込みながらの会話	1
	膝を触りながらの会話	3	隣に座る	1
	おやつ準備、声かけ	3	水分摂取の見守り	1
	おやつ摂食介助、声かけ	3	おやつ摂食の様子に目配り	1
	会話	5		
	おやつの後始末	1		
トイレ	起きる声かけ	2	A氏の状態に目配り	1
	手をつないでトイレまで往復	2		
	トイレ介助	1		
昼食	食事の誘いの声かけ	2		
	食事の準備、声かけ	5	A氏の向かいに座りC氏の様子も伺い	1
	摂食の介助、声かけ	5	ながら見守る	
	食事の後始末	2		

	服薬介助、声かけ	4	飲みきるまでの見守り 口の中に残っていないかの見守り	1 1
トイレ	お誘いの声かけ 立位の声かけ 移動介助 日常会話	1 1 2 2	移動の見守り	2
リビング	爪きりの声かけ 爪きりの介助 爪きりの後始末 日常会話(夕飯のメニューについて) 日常会話(野鳥観察、お酒の話) 買い物へのお誘いの声かけ 日常会話 上着を着せながらの声かけ	1 1 1 1 5 1 1 1	爪きりをしながらの見守り A氏の顔を覗き込む	1 1
買い物	乗車までの移動介助、声かけ ありがとうの声かけ 日常会話(湯豆腐の話) 車からお店までの移動介助、声かけ 会話(品物どれを選ぶか) お店から車までの移動介助、声かけ	4 2 2 5 15 10	品物を見ながら見守り	1
トイレ	誘導の声かけ 手をつないでの歩行介助	1 2	様子みている	1
調理	食品管理の声かけ(昆布を渡す) 調理へのお手伝いの声かけ 調理介助 会話 歩行介助	6 3 1 5 1	様子みている 一緒に調理をしながら見守り	1 1
夕食	食事のため、テーブルへ移動 食事の準備(鍋から器に盛る) 摂食の介助、声かけ 鍋についての会話	1 2 1 5	食事中的見守り 談笑	1 1
合計		167		33

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

認知症高齢者における環境支援の実態把握とモデル構築に関する研究
—認知症高齢者の活動に及ぼす環境支援の影響—

分担研究者 阿部 哲也 （認知症介護研究・研修仙台センター）
研究協力者 大久保 幸積（社会福祉法人 幸清会）
池田 和泉 （社会福祉法人 愛生会）
吉田 恵 （社会福祉法人 幸清会）
行徳 秀和 （社会福祉法人 幸清会）
小野寺 真 （社会福祉法人 典人会）

研究要旨

本研究は、認知症高齢者に対する環境支援が生活活動に及ぼす影響を検討することを目的に、〇県のK施設に入居している37名の認知症高齢者を対象とし、参与観察法による約12時間の活動の観測及び対象者が入居している13ユニットとグループホーム1箇所におけるPEAP日本語版50項目による環境支援実施度の調査を実施した。分析方法は、年齢、ADL、認知機能等の高齢者属性及び環境支援実施度を説明変数とし活動頻度を目的変数とした重回帰分析（ステップワイズ法）を行い、活動頻度への影響要因を探索的に検討した。その結果、散歩などの外出活動頻度には入居期間及びADL程度、見当識への支援実施度が影響していることが明らかとなり、雑談交流活動については認知機能、環境における刺激の質やふれあいの促進の実施度が影響し、ADLに関連した入浴、食事、排泄、移動などの行為頻度へは年齢、ADL程度、安全と安心への支援、自己選択への支援の実施度が強く影響していることが示唆され、外出、交流、基本的な生活行為を活性化しうる環境支援方略の方向性が明らかとなった。

今後の課題はADL、認知機能、年齢など的高齢者の機能別環境支援の方略を具体的にモデル化する必要性が示唆された。

A. 研究目的

近年、わが国における認知症高齢者グループホームの数は急激に増加しており、2000年10月には約700件程度であった事業所登録数が、2007年3月現在で約8800件にまで拡大している¹⁾。そして2003年には、特別養護老人ホームにおけるユニットケアの制度化が厚生労働省によって推進されている。これらの現状からここ数年の認知症高齢者を取り巻く居住環境は小規模化の方向で進んでおり、ようやく日本においても認知症ケアにおける環境支援の重要性が浸透してきていると考えられる。

高齢者の環境に関する研究は1960年代よりアメリカにおいて環境老年学という見地から蓄積が行われ、特に認知症高齢者については1990年代頃より環境評価における尺度開発という観点から研究が進んできた²⁾。代表的なものとしては Therapeutic Environment Screening Scale (TESS)³⁾、Nursing Home Unit Rating Scale(NURS)、Professional Environmental Assessment Protocole(PEAP)⁴⁾等であり、基本的な考え方としてはいずれも環境を物理的環境、社会的環境、運営的環境の3つの側面から捉えようとしている点であり、従来のハードウェアのみに焦点をあてた環境概念とは明らかに異なるものである。特にPEAPは環境を固定的で恒久的な側面と、可変可能な非固定的な側面に分けて捉えており、生活に関連した小物類やインテリア、装飾など個々の高齢者に合わせて適宜調整が可能なしつらえとしての環境面を提唱している。PEAPの日本への適用は2003年に下垣ら⁵⁾⁶⁾によってPEAP日本版3(痴呆性高齢者への環境支援指針)として作成され、同年、潮谷ら⁷⁾によって痴呆性高齢者環境配慮尺度の開発が行われている。一方、環境支援の効果に関する研究は未だ質量ともに充足しているとは言い難いが、近年、環境評価手法の開発とともに蓄積されつつある。児玉ら⁸⁾は環境配慮と介護職員のストレスの関係について、環境配慮への要求水準と実施状況の差異が職員のストレスを高めることを明らかにしており、特に小規模なケア環境は介護負担の増加を招く可能性も示唆した上で介護環境の質を向上するような研究の必要性を述べている。環境支援による高齢者本人への影響については、児玉ら⁹⁾によればプライバシーへの環境配慮と職員による環境調整の関わりが高い場合、高齢者本人の楽しみやくつろぎなどの肯定的表出行動が高く、環境配慮と職員の関わりの双方が伴わない場合は肯定的表出行動が低いことを明らかにしている。足立ら¹⁰⁾は、特別養護老人ホームのユニット化に伴う認知症高齢者の行動変化について調査したところ、家庭的な雰囲気のあるデイルームでの集まりは安定的であり、滞在場所が選択できることが他者との関わりの多様性を生じさせること、そして小規模な環境が個別的対応を容易にすることを明らかにしている。

わが国における認知症介護の方向性は、2003年に高齢者介護研究会によって報告されている「2015年の高齢者介護」によれば¹¹⁾、有する能力に応じ自立した生活を支援することを高齢者介護のビジョンとしている。つまり、認知症介護の目標は高齢者の自立した生活を、有する能力に応じて支援し尊厳をもってもらうことである。つまり、環境支援を含めた認知症介護の目的は能力を活用した生活の自立化と、高齢者自身のQOL向上であると考えられるだろう。能力を活用した生活の自立化とは、高齢者の現状の身体、精神、認知機能によって、他者からの援助や支援を伴いながら、当該の生活行為を完遂し、安定した豊かな暮らしを実現することと考えられる。

本研究では、認知症介護における主要な要素である環境に焦点をあて、環境を物理的な環境だけでなく、介護者や他者の関わりなどを社会的環境、施設の方針などを運営的環境として捉え、それらの環境支援の実施状況が高齢者の生活活動に及ぼす影響を検討することを目的としている。

B. 研究方法

1. 調査期間及び対象者

調査対象者は、〇県の特別養護老人ホーム及びグループホームを併設しているK施設に入居しており、ご本人あるいはご家族に調査同意を得た37名を対象とし(表5-1)、平成18年12月～平成19年1月中の無作為に選定した日の起床時から就寝時までの約12時間の活動を参与観察にて記録した。

K施設は昭和53年に開設した定員100名の特別養護老人ホームであり、平成18年に14ユニットを備えた新型特別養護老人ホームとして新設している。敷地面積36,117㎡、建物面積8,621㎡で、特別養護老人ホーム部分の面積が7,940㎡、個室が130室(1室19.25㎡)、全室完全個室の大規模な老人ホームである。施設の理念は「個々の尊重」、「自立支援」、「プライバシーの完全保護」を重点としており、1ユニット内にリビング、キッチン、浴室を完備しパブリックスペースには地域交流ホール、小ホール、機能回復訓練室、売店、美容院、託児施設を備えている。グループホームは施設に離れて隣接し、瓦葺の平屋建てで9室の1ユニット型である。

施設全体に共通している環境設備は、床材は衝撃を緩和できる素材、玄関には消毒用ポンプが必須、施設外の遊歩道、中庭、テラス等と一体化した造り、屋外広場の確保、露天風呂の設置、小談話スペースの確保、喫茶店設置、礼拝室設置等である。介護職員配置は、特養、グループホームとも看護職員と介護職員を合わせて2.5:1、介護職員のみで2.7:1の配置となっている。

2. 調査方法

1) 調査内容

(1) 高齢者の活動実態調査

① 活動の定義

活動という概念はとても広範でありアクティビティ、作業、行為、動作などの用語と同義で使用される場合も多い。ICF¹²⁾ではactivityを活動とし課題や行為の個人における遂行であると定義している。是枝ら¹³⁾は特別養護老人ホームにおける高齢者の創作活動について、生活の中で高齢者が主体的に楽しみを見いだすその人らしい生きがい活動をアクティビティと名づけている。村木ら¹⁴⁾は認知症高齢者に対する作業療法の観点から「作業」の分類を、生きるための「身近活動」、社会的に必要な義務作業である「仕事」、自由な時間における作業である「余暇活動」として3つに大別し、これらの実践を通して1人の人間の自律を目標とするのが作業療法の広義の意味であると述べている。本研究で取り扱う「活動」は高齢者が生活上実施している行為、作業の全てを含み、村木らの分類を参考に、入浴や排泄、食事等に関する生活遂行のための基本的な生活行為、家事・炊事や水遣りなど生活の管理を遂行するための生活義務活動、うるおいある生活を実現するための趣味余暇活動を活動として捉え、単な

る振る舞いや動き、行為も含めて広義の活動とし調査の対象とした（参考資料1）。

② 符号化基準

調査によって観測された活動あるいは行為は、先行研究を参考にあらかじめ分類した活動分類基準に従い符号化を行った。符号については、基本的な生活行為、生活関連の義務活動、趣味余暇活動、その他の活動として4つに分類し、さらに4分類の中で行為の目的や意味に応じて分類を行い活動コードを設定した。観測された行為あるいは活動が活動分類コードの中に該当しない場合は新たに活動コードを増やし活動分類基準を修正していった。活動の分類およびコード設定については研究者2名が先行研究を参考に実施した。

(2) 環境支援調査

① 環境支援の測定

本研究における環境支援に関する測定は近年、認知症高齢者の施設環境評価のための尺度として開発が行われその有用性が検証されている認知症高齢者施設環境配慮尺度日本語版（PEAP）を採用した。従来より高齢者のための施設サービスや施設環境に関する評価については先行研究が多数行われてきているが、物理的な環境を主に扱うものが多く、あるいは認知症に特化した環境評価については充実しているとは言い難いのが現状である。PEAPは1990年代以降、国外において開発されてきた認知症高齢者の環境評価に焦点をあてた評価尺度および環境指針であり、最近では児玉らにより日本語版の開発が実施され検証が進められてきている。

PEAP日本語版は全部で50項目の質問から構成され、8つの次元9分類の下位項目で分類されそれぞれの下位分類ごとの平均点を算出する。8次元、9つの下位分類（「環境における刺激の調整と質」は1次元であるが、項目としては「環境における刺激の調整」と「環境における刺激の質」に分けている）は、「能力への支援」、「環境における刺激の調整」、「環境における刺激の質」、「生活の継続性への支援」、「プライバシーの確保」、「自己選択への支援」、「ふれあいの促進」であり、「かなり実施されている」、「まあまあ実施されている」、「あまり実施されていない」、「まったく実施されていない」の4件法にて実施度を評価するものである。採点は「かなり実施されている」を4点とし、「まったく実施されていない」を1点として下位分類ごとに平均点を算出する。

2) 調査手続き

(1) 高齢者の活動実態調査

高齢者の活動調査については、調査期間中の1日を選択し、1ユニットから調査の協力同意を得た高齢者を1名選び、起床時から就寝時までの日中約12時間について調査員1名がユニット内に常駐し、所定の調査記録票に活動生起時刻、活動の

内容をあらかじめ設定している活動分類コード表を参考に記述にて記録した。調査日の選定については、今回の研究の主旨が生活における活動の実態把握を目的としているため、できるだけ特別な行事や祭事の無い標準的な日課を調査日として選択した。調査員はあらかじめ調査日前に活動分類コード表の説明を受け、記録のトレーニングを半日ほど実施している。これらの調査を、施設全14ユニット中13ユニットおよび、グループホーム1箇所に入居している37名の高齢者について実施している。調査日は意図的にユニットごとに異なる日を選び、日課によるバイアスを考慮した。

調査の性質上、高齢者の生活場面への参与調査であるためプライバシーの問題には細心の注意を払い、浴室内、トイレ内については観察困難なため介助者に質問して調査を実施し、移動については可能な限り追跡して調査しているが外出など観察困難な場合は記録を中止し、観察可能な場面から再開している。

(2) 環境支援調査

環境支援の実施度に関する調査は、全14ユニット中調査対象者が入居している13ユニットおよびグループホーム1箇所について、各担当職員にPEAPの50項目の実施度について4件法にて回答を依頼した。

3) 分析方法

活動実態については、活動の実施人数について37名中の実施割合を算出し、PEAP得点については下位次元ごとに施設全体及びユニットごとの平均点を算出した。活動の実施頻度とPEAP得点の相関についてはPearsonの積率相関係数を、活動の実施頻度へのPEAP下位次元ごとの平均得点、高齢者属性の影響については重回帰分析を実施した。分析にはSPSS統計解析パッケージver12.0 for Windowsを使用した。

(倫理面への配慮)

本研究では、研究協力者である介護職員及び一部個人情報が必要とする認知症高齢者或いはその代理者に対して、個人情報の取り扱いや人権擁護に配慮し、十分なインフォームドコンセントを保証することを最優先し、研究等によって被ることが予測される不利益について説明文書および同意文書をそれぞれ作成し、十分な説明をし文書にて同意を得ることとしている。尚、研究者所属機関における定例の研究倫理審査委員会にて研究方法における倫理審査を行い倫理上の承認を得る事を義務づけている。

C. 結果と考察

1. 調査対象者の属性

1) 性別割合

本調査における対象者の性別割合は、調査対象者37名中、男性8名(21.62%)、女性29名(78.38%)であり、8割弱が女性の入居者とほぼ男性の4倍となっている(表